

## あったかいね、笑顔が生まれる“ぐるり”の関係

顔の見えるつながりから、喜びの声が生まれ、その声が活動の意欲や生きがいにつながっていきます。「あなたがいてくれて嬉しい」。その想いと笑顔が、協議体の活動を支えています。



長野県小布施町  
松村地区協議体(第2層)  
“ハッピーライフまつぼっくり”  
支え合いレポート

### わたしが支える地域は、 わたしを支える地域だから

コロナ禍で人の集まる行事が中止になる中、あちこちの“居場所の活動”もストップ。不安な気持ちが広がる一方で、松村地区では地域の皆さんの「コロナの中でも、何かできないかな?」「どうしたらできる?」の話し合いから、地区の自治会・公民館活動が主体となって、もちつき大会が行われました。大人と子どもが力を合わせて臼と杵でついたおもちを、あんこときな粉に味付けされ、手紙とともに地区の全戸に配布。「元気でいた?」「ありがとう」「おいしかったよ」「お互い体に気をつけようね」…。おもちと一緒に、思いやりの気持ちがつながりました。

「コロナで居場所の活動が止まって、どうしようって心配したけれど、  
支え合いの気持ちは止まらなかった」(ハッピーライフまつぼっくり話し合いの場にて)

◆松村協議体“ハッピーライフまつぼっくり”では、令和元年度から地域の居場所を開催。しかし、顔の見えるつながりの芽が出てきた矢先のコロナ禍で、居場所の活動はすべてストップ。

◆そんな時、話し合いの場で出された「人が集まれなくても、支え合いの歩みは進めよう」の声から、活動する側・支えられる側の双方がにっこりできる“有償ボランティア活動”が始まりました。

おひとり暮らしで障がいをお持ちのAさん。  
普段は就労支援福祉施設に通い、お仕事に励まれています。

新型コロナウイルス感染拡大前は、ハッピーライフまつぼっくりの居場所部の多世代食会や体操の集いに参加されていました。

Aさんは、12月からスタートしたハッピーライフまつぼっくりの有償ボランティアで、雪かきをお願いすることに。居場所の活動に誘ってくれたOさん達と、顔の見えるつながりができていたことがきっかけになりました。

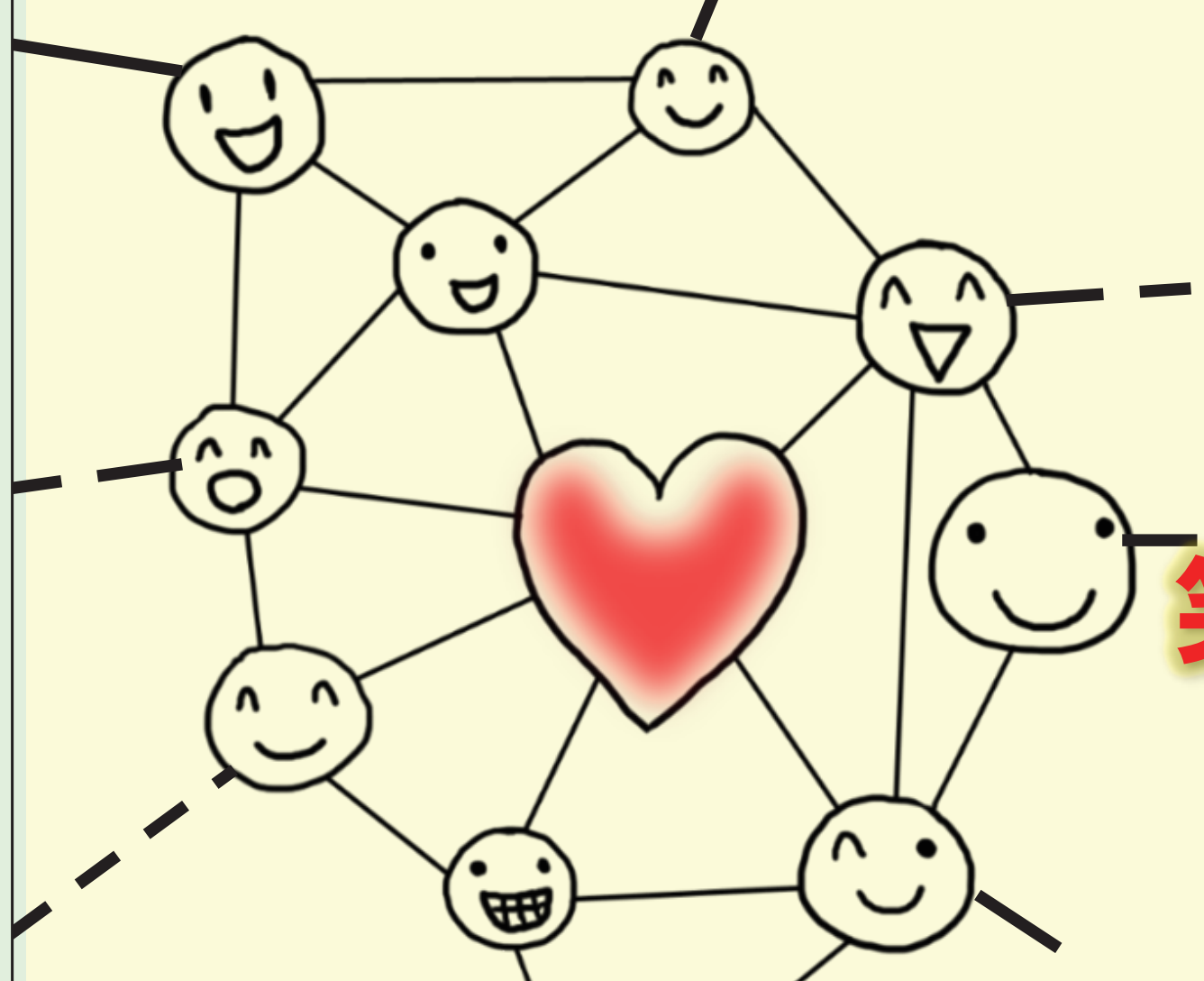
今は、電話や連絡ノートでやり取りをしています。  
ノートに、大きな字で「雪かきありがとうございます」と書くAさん。コロナ禍がもうちょっと落ち着いて、「居場所の活動が再開するのがとても楽しみ」と、嬉しそうに訪問ヘルパーに話してくださいませ。



「顔見知りの人が  
手伝ってくれるから安心」

#### ハッピーライフまつぼっくり 有償ボランティア(R2年12月～)

対象者	・原則 65 歳以上の方 ・障がい等があり、困難を抱えている方(年齢を問わない)
支援	雪かき…1回300円 (居場所でも使えるチケットを資源ごみ出し…1回100円 つくりました)
活動報告	依頼されたのは「ひとり暮らし高齢者」、「高齢者夫婦世帯」、「障害者手帳をお持ちの65歳以下の独居の方」。 雪かき6軒に対応中。 また、資源ごみのごみ出し以外にも、通常のごみ出しのニーズも見つかり、モデル事例として取り組んでいます。



わたしたちが目指すのは、  
笑顔が生まれる“ぐるり”の関係

顔の見えるつながりから、喜びの声が生まれ、  
その声が、活動の意欲や生きがいにつながっていきます

「ずっと参加してくれたから、  
活動も続けられたんだ」

ハッピーライフまつぼっくりのリーダーOさん。  
Aさんを支える有償ボランティア活動者でもあり、ご近所での見守りを続けています。  
Oさんは「活動当初からAさんが、毎回イベントに参加してくれたので、自分たちの協議体の活動も中止せずに続けることができました」と、Aさんへの感謝の言葉を話してくれました。

ピンチをチャンスに!

小布施町第1層生活支援コーディネーター  
小布施町社会福祉協議会 伊藤・馬場  
電話:026-242-6665